



2026 SUPER GT RACE REPORT

OKAYAMA INTERNATIONAL CIRCUIT

Rd.1

4.11[sat] - 12[sun]

[place] 岡山国際サーキット(岡山県美作市)

[weather] sat 晴れ sun 晴れ

[spectators] 25,500人 (sat 9,000人 sun 16,500人)

Rd.1	OKAYAMA International Circuit	APR 11 - 12
Rd.2	FUJI SPEEDWAY	MAY 3 - 4
Rd.3	Sepang International Circuit	JUN 20 - 21 *開催延期
Rd.4	FUJI SPEEDWAY	AUG 1 - 2
Rd.5	SUZUKA CIRCUIT	AUG 22 - 23
Rd.6	Sportsland SUGO	SEP 19 - 20
Rd.7	AUTOPOLIS	OCT 17 - 18
Rd.8	MOBILITY RESORT MOTEGI	NOV 7 - 8

ライバルを圧倒し今年も開幕戦で優勝。
前人未到の4連覇に向けて、
幸先の良いシーズンスタートを切る。



2026 AUTOBACS SUPER GT SERIES Round1「OKAYAMA GT300km RACE」が、4月11日・12日に岡山国際サーキットで行われた。昨年、シリーズチャンピオンを獲得した #36 au TOM'S GR Supra (坪井翔/山下健太) は、予選2番グリッドから終始力強い走りを展開し、レース中盤にライバルを逆転してトップに浮上。その後は後半担当の坪井が、後続を引き離して2番手に19.6秒もの大差をつけて優勝した。



36		RESULTS	
	TGR TEAM au TOM'S	Round 1	
		QUALIFYING 1	YAMASHITA P1/1'17.660
		QUALIFYING 2	TSUBOI P2/1'17.417
		RACE / Fastest Lap	TSUBOI 1'21.442 YAMASHITA 1'20.654
坪井 翔 SHO TSUBOI	山下 健太 KENTA YAMASHITA	予選 2 位	決勝 1 位
		Driver Standings	1 位
		Team Standings	1 位

QUALIFYING

天候:晴れ | 気温:25°C | 路面温度:37°C

今年も、チャンピオンナンバーであるゼッケン1番をつけることはできたが「初心に立ち返る」という思いから、ゼッケンを従来の36番に戻し、心機一転で2026年シーズンに臨む au TOM'S GR Supra 陣営。シーズン前のテストからトップタイムを記録し、着々と準備を進めてきた。

晴天に恵まれた11日の公式予選では、山下がQ1を担当。コース後半まで全体ベストタイムを更新するペースでタイムアタックしていたが、アクシデント車両が発生して赤旗中断となった。再開後もう一度タイムアタックをする必要があったが、山下はしっかりとライバルを上回るタイムを記録してトップ通過を果たした。続くQ2では坪井がステアリングを握り、1分17秒417を記録。しかし、ライバルに僅差で逆転され、決勝は2番グリッドから優勝を目指す。



RACE

天候:晴れ | 気温:24°C | 路面温度:39°C

前日同様に晴天のなかで始まった決勝レース。2番グリッドの36号車は、山下がスタートを担当した。序盤から仕掛けていくも、トップを走るライバルも手強く、なかなかチャンスを見出せない状況だった。そのなかで山下は粘り強く周回を重ねていき、ライバルよりも早い32周目にピットイン。坪井に交代した。それに合わせてライバルも次周にドライバー交代を済ませて36号車の前でコースに復帰。坪井は、相手のタイヤが温まる前に勝負をかけ、37周目のバックストレートでオーバーテイクを決めた。それ以降は、安定したペースで徐々に後続との差を広げていった。今回は一度もセーフティカーやフルコースイエローが導入されない展開となったが、チャンピオンチームらしい堂々としたレース運びをみせて、3年連続で開幕戦優勝を飾った。



Driver
坪井 翔

ライバルが手強いのは分かっていました。簡単に追い抜けないだろうと予想してスタートしましたし、山下選手のスティントで逆転するのは難しいと思っていました。ただ、ある程度近いところにいるのであれば、相手のピットアウト直後がチャンスだと思っていたので、作戦通りオーバーテイクして、レース前のプラン通りに進めることができました。その後はいろんなリスクを考えてあまり攻め過ぎずに走っていましたが、それでも大差をつけることができました。

Driver
山下 健太

本当はトップに立って坪井選手にバトンを渡したかったですけど、ライバルも手強いので、チャンスは限られるだろうと予想しながらスタートしました。タイヤのピックアップやGT300との混走の兼ね合いもあって、微妙に差が広がった状態で坪井選手に交代することになってしまったのは反省点ですが、チームのピット作業と坪井選手の素晴らしい走り優勝することができました。昨年も開幕戦で優勝してRound2で2位に入っているの、今年は2連勝できるように頑張りたいです。

Team Director
伊藤 大輔

レース序盤で山下選手がなかなかライバルを抜けなかったことに関して、本人は悔しいかもしれませんが、簡単に抜ける状況ではないとわかっていましたので、ピット戦略や後半のレース展開で逆転したいと思っていました。レース前のプラン通り、ミスなく走れば勝てると思っていましたので、それを2人がきちんと実行してくれたので、本当に良かったと思っています。次戦の富士はドライバーもチームも相性は悪くないと思っているので、まずは表彰台に上がりたいと思っています。

Deputy
Team Principal
館 信秀

予選でポールポジションを獲れなかったのは悔しかったですけど、決勝のロングランに関しては自信があったので、何の不安もありませんでした。私自身も今回は「勝てるのではないかな」と思うほど、36号車のポテンシャルの高さを感じていました。ただ、37号車にはトラブルが発生していたので、同じことが36号車に起きなければいいなと思いながら、レースを見守っていました。毎回言っていますが、この2人のドライバーは素晴らしいです。本当に最強だと思っています。

また次戦も、たくさんの応援をよろしくお願いたします。